

Title	土族語の正書法のバリエーション
Author(s)	角道, 正佳
Citation	大阪外国語大学論集. 26 p.69-p.96
Issue Date	2002-03-22
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/79876
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

土族語の正書法のバリエーション

角 道 正 佳

Variations in Monguor Orthography

KAKUDO Masayoshi

Variations in Monguor orthography mainly arise from (1) how to assign a sound, (2) presence or absence of a space, (3) combination of (1) and (2), (4) choice of allomorph, (5) presence or absence of a segment,. The main purpose of this paper is to pick up all the possible variations which occur in two dictionaries and seven books. A wrong assignment of a sound may ambiguate grammatical functions in a sentence and a space may cause a problem, if it corresponds to a lower rather than a higher morpheme boundary. In general, the authors of the books have a tendency to spell as they like ; even a single book written only by one author has a lot of variations in spelling.

0. はじめに

土族語の正書法は魯長寿 (1985 : 58-59) によると、「1975年6月、中共互助土族自治県委員会及び県人民政府は民衆の要求に基づき慎重に研究し、土族文字を作ることを決定し、李克郁に土文法案を起草することを依頼し、土文法案 (草案) は7月16日、中共青海省委及び人民政府に報告され、上級指導機関の討論を通過し、国家民族事務委員会に報告された。こうして土族人民の長年の願望が実現した」のような過程を経て成立した⁽¹⁾。

この正書法の特徴についてはすでに角道 (1990) で論じたが、当時利用したのは、互助土族自治県民族語文辦公室翻印 (1982) 『土漢対照詞彙』及び李克郁主監 (1988) 『土漢詞典』のみであった。しかし1980年代にすでに正書法で記された書物が出版されており土族語の語が様々に綴られているのを観察すると、これらを見捨てるわけにはいかないし、『土漢詞典』にもやはり同様のバリエーションが存在することが分かった。

1. 資料

土族語を正書法で表記したもので今回利用したものは以下のものである。テキストには出

版年が明記されていないものもあるが、とりあえず以下の順に出版されたものと考えておくことにする。綴り字に個人的な特徴が反映されている可能性があるので、執筆者が明記されているものについては名前を記しておく。引用の際は略号ないし数字を用いる。

辞書

- MQHU 互助土族自治县民族語文办公室翻印 (1982) 『土漢対照詞彙』 (*Mongghol Qidar Harilqilegu Ugosge*) 互助土族自治县
- MQM 李克郁主監 (1988) 『土漢詞典』 (*Mongghul Qidar Merlong*) 青海民族出版社
西寧

テキスト

- ① Mongghol kile pujignu ghajarsa, *Mongghol Pujignu Moxigu debtir* (sarlagu)
(青海省互助土族自治县民族語文办公室編『土文讀本』(試用))
- ② H. M. N. Szarbatennu kile pujignu ghajarsa, *Mongghol Pujignu Moxigu debtir* (sarlagu)
Ghoordar (青海省互助土族自治县民族語文办公室編『土文讀本』(試用))
- ③ Mongghol kile pujignu ghajarsa (1980.9) *Monggholnu Kudugu Dau* (1)
(互助土族自治县人民政府民族語文办公室編 (1980.9) 『土族民歌』(第一集))
李克郁、伊耀安、李玉蘭、席元麟
- ④ H. M. N. Szarbatennu kile pujignu ghajar (1981.4) *Szarbatennu Ulon Kun Dunda Waijin Hughoi* (互助土族自治县人民政府民族語文办公室編譯(1981.4) 『民族民間故事』)
席元麟
- ⑤ H. M. N. Szarbatennu ugo pujignu ghajarsa (1981.11) *Mongghol Ulon Kun Dundagu Dau*
伊耀安、席元麟
- ⑥ H. M. N. Szarbatennu kile pujignu ghajarsa (1982.6) *Rdemdii Hghui* 席元麟
- ⑦ HMNDX. Szarbatennu da qii uilenu ges (1990.6) *Mongghul Pujig Surigu debtir* (Sarlagu)
(互助土族自治县民族宗教事務局編 (1990.6) 『土文讀本』(試用本)) 組長: 席元麟、
唐有財、編譯: 魯文忠、秀志良、董文臻、編審: 席元麟、李克郁

二冊の辞書の表記の違いについては角道 (1990:62-64) で述べた。テキスト①～⑥は MQHU に近く、テキスト⑦は MQM に近い表記体系を持っていて、出版年との相関関係が感じられる。

2. バリエーションの種類

バリエーションは (1) ある音をどの音素に帰属させるかの違い、(2) 分かち書きをいつするか、(ある形態素を語幹に付けて書くか、語幹から離して書くか、どこで離すか) の二つに大きく分けることができる。(1) は日本語で言えば、「三本」を sanbon と綴るか sambon と綴るかの違い、(2) は「書く」を kaku と綴るか kak u と綴るか ka ku と綴るかの違いに相当する。以上の違いの他に角道 (1989: 70-72) ですでに述べたアポストロフィーの使用の有無がある。これは日本語でいえば、「金曜日」を kin'yoobi と綴るか kinyoobi と綴るかの違いに相当するが、MQM以外のものにはアポストロフィーはいっさい使用されていない。

(1) と (2) の両方にまたがっているバリエーションもあるが、個々に説明することにする。例えば主題標識は (a) #ni, (b) -ni, (c) -nu (ただし#: 語幹から離して書く、-: 語幹に付けて書く) の3つのバリエーションがあり、(1)、(2) の両方が関係しているが、(1) のほうで扱う。疑問助詞が関係する場合は理論的にはA本来型、B結合型、C引き寄せ型、Dコピー結合型、Eコピー引き寄せ型、F消去分離型の6種類にパターン化しなければならないため、(1)、(2) の分類には収まりきらないので、別項目を立てることにする。

さらに単数を表す形態素 (-nge, -ge) の (4) 異形態の選択の仕方の違いによるバリエーションがある。日本語で言えば、「六本」の「本」が rokuhon か roppon のようなバリエーションに相当する、最後に (5) ある音を書くか書かないかという違いがある。日本語で言えば、「適格」を tekikaku と綴るか tekkaku と綴るかの違いに相当する。

バリエーションの中には当然のことながら、間違った解釈や知識によるものがあり、明らかに誤植のものもある。しかしこれらを除いても執筆者の好みによる違いも存在する、句読法の使用に関してMQMで気づかなかった珍しい使い分けが②、④、⑥、⑦に見られる。①、③、⑤にはたまたまそういう表現がないので、すべてに共通する特徴と考えてよさそうである。これは「,」と「、」を使い分ける方法であり、後者は列挙する場合にのみ用いられる。

3. 音素帰属の違いによるバリエーション

ある音をどの音素に帰属させるか、そしてその結果どの綴りで表記するかに関する違いには次のものがある。

A. i/u

A 1 語幹内部

A 2 ni/nu (主題、属対格)

B. o/u

C. o/a, i/e, e/a, /i 等 (主として語幹内部)

D. gh/g (ghulo/gulo (接統体副動詞、形容詞を修飾する副詞))

E. w/ゼロ (過去形)

F. i/ゼロ (特定の音環境)

Aは語幹内部の表記の違いと接辞の表記の違いとに分けられる。前者については角道(1990: 62)ですでに述べたので省略する。後者は主題、属対格の表示の仕方に関するものであり、同一書物内部においてもバリエーションが見られる。Bは語幹内部におけるバリエーションであるが、すでに角道(1990:62-63)で述べた。Cも主として語幹内部における違いである⁽²⁾。Dは接統体副動詞あるいは形容詞を修飾する副詞として機能する形態素にのみ現れるバリエーション ghulo, gulo, ghula, gula である。Eは過去形形態素 wa の後ろに疑問助詞 uu が続いた場合に、wu となるか uu となるかによる違いである。以下接辞に関するものを中心にバリエーションを見ていくことにする。Fは語幹末の ri, li の i が d, j, s, g, l 等で始まる接辞の前で脱落するか否かによるバリエーションである。

3. 1. 主題、主語

主題、主語、属対格はすべて [nə] という同じ音声形式を持っている⁽³⁾。[ə] を i と u のどちらで表記するか、分かち書きをするかしないかによって #ni, -ni, -nu の3通りの綴り字が存在する。#nu は存在しないようである。ここでいう主題というのは文の中で必ずしも主語にはならないが、起源的には三人称所有接辞 ni が後置しているものを表し、時、場所の表現が含まれる。主題、主語は名詞相当語句に後置する場合は、#ni の形式が最も多いが、節全体が名詞句になり形動詞 (-gu, -san) に後置する場合は -nu の形式が圧倒的に多くなる。属対格は -nu の形式が最も多い。以下に具体例を述べる。★は最も使用頻度の多いものである。

3. 1. 1. 主題

#ni (主題) ★ (①26, ②6, ③72, ④45, ⑤1, ⑥58, ⑦3, MQM (ana 10), 等)

- (1) Temur bazarnu turo ni ③72

鉄の 城の 中に

-ni (主題) (②57, ④151, 等)

- (2) hanala qagduni kurji ujela ireldum muu? ⑤7

皆 時間に 来て 見に 来てください。

-nu (主題) (②9, ③72, ④41, ⑥26, MQM (gangan 121), 等)

- (3) Xiruu bazarnu turonu ③72

土の 城の 中に

対格に三人称所有接辞が後置する場合、次の2種類の形式がある。

-nii#ni 「を」 (②23, ④185, ⑥5, 等)

- (4) Liufunnu sainii ni nauji surina. ②23

雷峰(人名)の 良さ を見て 尋ねた。

-niinu 「を」 (②7, ③4, ④14, ⑥8, ⑦37, MQM (idedal 214), 等)

- (5) tensa hoino yaan asghugu dongxi da dongxinu tooliinu szaliudu juurina. ②7

その 後 何を 借りるかの 物 と 物の 数を 詳しく 書く。

副動詞 dulaa に後置する次のような例が観察される。

-dulaanu (④) 31, ⑦43)

- (6) Hgainu tijeedulaanu hgainu idegu duraannii nauda. ⑦43

豚を 飼うとき 豚が 食べ たがっているものを見ろ。

3. 1. 2. 主語 (名詞相当語)

#ni (主語) ★ (①22, ②26, ③7, ④9, ⑤3, ⑥2, ⑦3, MQM (adali-3), 等)

- (7) Szu warigu sghau ni kuriya. ③7

水を取る とき が 来た。

-ni (主語) (②74, ④20, ⑤75)

- (8) Aadal ulagu logni gua, ⑤75

生活 する 方法が ない。

-nu (主語) (③5, ④46, ⑥28)

- (9) terenu kurilgha shdagu lognu gui. ③5

それを 届かせることが できる 方法は ない。

3. 1. 3. 主語 (節)

-gu#ni (主語) (④5)

- (10) Ixi ni sanasa, taraa oosigu ni ixi udaan waigu madunge waiguna. ④5

こう 思えば思うほど 作物が 育つの は 遅い ようだ。

-guni (主語) (④22)

- (11) qimu puxiiguni jobdawa. ④22

おまえの でないのは 本当だ。

-gunu (主語) ★ (①34, ②13, ③4, ④3, ⑤3, ⑥5, ⑦2, MQM (gorjiida- 150), 等)

- (12) tennu haajaji uligunu gui, ①34

それを 覆うことは でき ない。

- (13) Shge ghada tolghui hargua xjigunu wai, ⑥5

原野には 頭が くらくらして しまうものがある。

-san#ni (主語) (④27, MQM (gundang 157))

- (14) Hanansa muxi juuriji gharghasan ni buwa. ④27

皆より 先に 描き 終えたの は 私だ。

-snnu (主語) ★ (②14, ④46, ⑥48)

- (15) Bu njeenaa tarisannu wai, ②14

私が 自分で 植えたの だ。(文脈上「私が自分で植えたものがある」という意味にはならない)

- (16) Balghasang kilesannu jobwa ④46

バルガサン (人名) が 言ったことは 正しい。

節の場合、限定節の被修飾語がたまたまゼロになっている場合が多いが (15) のようにそうでないものもある。いずれにしても、節の場合-nu の形式が圧倒的に多いのは、母語話者の言語直観がモンゴル語等の他の言語のものとは異なるのが原因のようである。

3. 2. 属対格

属格のほとんどは-nu の形式で現れるが、稀に#ni, -nii のものがある。

-nu 「の」 ★ (①15, ②1, ③1, ④1, ⑤1, ⑥1, ⑦1, MQM, 等)

- (17) Mongghol Pujignu Qighaan Tolghoi ①15

土族 文字の アルファベット

#ni 「の」 (④159, MQM (shdahua 503), 等)

- (18) shdahua moodi ni yaghan MQM (shdaahua 503)

シラカバの 木 の 椀

#ni 「を」 (④7)

- (19) funige da foor torosanaa ghariji ireji idegu ni mange yerla xjina gina. ④7

狐 も 巣の 中から 出て 来て 食べ物 を など 探しに 行った そうだ。

属格の-nii 形式は非常に稀であるが、次のような例がある。

-nii (属格) (⑥15)

- (20) morinii koljeenii sonosidaadu (sic) shdana. ⑥15

馬の 足跡を 聞くことが できた。

三人称人称接辞に由来する-ni が接続しない対格で-nii の形式のものがある⁽⁴⁾。

-nii (対格) (④56, ⑥29, 等)

- (21) smannu nireniinge baulghaa, ⑥29

薬の 名前を 書いて

-gu#ni 「を」 (②24, ④11, 等)

- (22) Qi tendu bu waigu ni kileji gui yuu! ④34

おまえは そこで 私が いること を 言わ なかったの か。

3. 3. gh/g

土族語では [ɔ] と [g] とは別の音素の異音であり、通常 [ɔ] は音節初頭では gh、音節末では g と表記され、[g] は g と表記される。音節末では [ɔ] と [g] が中和し [ɔ] しか現れないが、おそらく表記を簡略化するために g が用いられているのであろう。詳細は角道 (1990: 61-62) を参照のこと。

しかし次に述べる二つの形態素においては、音節初頭の [ɔ] が gh と綴られたり g と綴られたりしている。分ち書き、o と a の交替も関係しているため、以下のようなバリエーションがある。

3. 3. 1. 接続体副動詞

他の書物では一つの形態素として表記されているが、正書法ではなぜか分ち書きされていることのほうが多い⁽⁵⁾。

-san#gulo (持続体副動詞) ★ (②4, ④1, ⑤5, ⑥2, MQM (gidi 145), 等)

- (23) hulsi bandangge sausan gulo pujig juurina. ⑥2

竹の 腰掛けに 座って 字を 書いた。

-san#ghulo (持続体副動詞) (⑤9, ⑥27)

- (24) nige funisaanu amanaa nghaiwaa shdenaa rziisan ghulo idegu logge

ちょっと 嗅いで 口を 開けて 歯を 剥き出して 食べる ふりを
ghudolghasa, ⑥26-27

すると

-san#gula (持続体副動詞) (⑥17)

- (25) shdoogu zongjaaqinge pauloonaa damlasan gula yauji dawaaji irejiiguna. ⑥17

年取った 農夫が ? を 担いで 歩いて 越えて 来た。

-san#ghula (持続体副動詞) (⑥34)

- (26) Xii Wunbau tolghuinaa harji ireenu tesgenu nausan ghula Kilegu (sic) ni:

西 面豹 (人名) は 頭を ? 来て 彼らを見て 言った。⑥34

-sangula (持続体副動詞) (③2)

- (27) tolghoinaa tangliisangula, shge halghu mange halghulaji yaunge shdawa. ③1-2
頭を 上げて 大きな 歩みなどを 歩み 進むことが できた。

3. 3. 2. 形容詞を修飾する要素

形容詞を後ろから修飾して程度が大きいことを表す。「非常に」と訳せるが、「非常に」を表す語は他にもある⁽⁶⁾。

形容詞#ghulo★ (②31, ④48, ⑤44, ⑦21, MQM (ghulo 141), 等)

- (28) szarag ghulo ④48

けちな

形容詞#gulo (②118, ④8, MQM (anamana 17))

- (29) saihan gulo ④8

美しい

形容詞#gula (④10)

- (30) Haibaa arasinaa jimusannu ixi da qirag gula, ④10

蛤が 口を 閉じたのは 非常に 堅くて、

3. 4. 奪格

奪格はほとんどは-saであるが、ごく稀に-saaが現れる。

-sa (奪格) ★ (①37, ②6, ③1, ④13, ⑤1, ⑥1, ⑦6. MQM, 等)

- (31) solghoi rogsa warang rogduji ①37

左 側から 右 側へ

-saa (奪格) (③3, ④73, ⑥3, 等)⁽⁷⁾

- (32) Nara qijig shdesaa hara ulidulaa naranu furaasan gulo xineena. ⑥3

ヒマワリは 早くから 暗く なるまで 太陽の方向を 向いて 笑う。

4. 分かち書きの有無によるバリエーション

前の語に付けて書くか離して書くかという違いによる簡単なもの(すなわち分かち書きの位置が形態素境界と一致するもの)もあるが、動詞の陳述形式や主観範疇、客観範疇が関係するものや疑問助詞はどこで分かち書きをするか、子音を重複させるか否か等が関わり、非常に複雑な様相を示す。その結果分かち書きの位置が必ずしも上位の形態素境界と一致しない。-ji#ii+gun+aは通常-jii#gunaと綴られる⁽⁸⁾。これは例えば日本語の tabe+te#ok+u「食べておく」の縮約形 tabe+#ok+u「食べとく」を tebeto#kuと綴るようなものである。

4. 1. da 「も」

#da 「も」 ★ (②3, ④4, ⑤1, ⑥1, MQM (ama2 11), 等)

- (33) aadalre da xjirbuuhange wai guna. ⑤1

生活に も 幸福が あった。

-da 「も」 (③4, ⑦6, MQM (igii 215), 等)

- (34) nensa huinoda argu shge Gunsandangnu durisang dooro ⑦6

今 後 も 偉 大な 共産党の 指導の 下に

-nu#da「を+も」(⑤2)

- (35) Deeren taawun nasilasa dii yaannu da mudeni guna! ⑤2

4、 5 歳になると 何で も 知っていた。

副詞の中には da を伴うものがあって、次のバリエーションがある。

ixi#da「非常に」★(②52, ④90, ⑤1, ⑥2)

- (36) ama ixi da ndasaanu ghal ghargu madu gina, ②52

口が 非常に 渴いて 火が 出る ようだ と言った。

ixida「非常に」(⑥) 18, ⑦17, MQHU, MQM)

- (37) fureenu kidi udur naradasa ixida saina. ⑦17

種を 数 日 干すと いっそう 良い。

ixiida「非常に」(①47)

- (38) Hara kireenge waisa ixiida ndasaanu ①47

黒い カラス は 非常に 喉が渴いて

副動詞は通常分かち書きしないが da を伴う譲歩副動詞には次のバリエーションがある。

-sada (譲歩副動詞) ★(①29, ②23, ③2, ⑥39, ⑦8, MQM, 等)

- (39) yama gisada lii mude ni! ②23

どう しても 分らない。

-sa#da (譲歩副動詞) (②27, ④1, ⑥1, ⑥4)

- (40) nara qijig ali qagdu kurisa da naranu furaawaanu sausamba. ⑥4

ヒマワリは どんな とき でも 太陽に 向かう。

なお、接続詞の da「と」は前の語から離して分かち書きする⁽⁹⁾。

4. 2. mange「など」

#mange「など」★(②25, ④7, ⑤3, ⑥2)

- (41) Qi xini sara qaalsi pau mange pauda uu? ⑥7

あなたは 正 月の 紙 砲 などを 打った か (爆竹などをしたか)。

-mange「など」(③) 4, ⑦40)

- (42) budangula darang lamanqan sgilmange taiji nemjiji, ③4

我々は 美しい 気持ちなどに 留意し

-nu#mangee「を+など」(⑥16)

- (43) yama idegunu mange lii ulisa ndaa losaa fugulghaguna. ⑥16

何か 食べ物 などを 手に入れなければ 私を 飢えて 死なせる。

-ni#mange「を+など」(④7)

- (44) funige da foor torosanaa ghariji ireji idegu ni mange yerla xjina gina. ④7

狐 も 巣の 中から 出て 来て 食べ物 を など 探しに 行った そうだ。

最後の2例は対格の-nu(または#ni)が明示されている場合であり、こういう場合は mange は分かち書きされるようである。ただし例が1例ずつしか見当たらない。

4. 3. shdaar「ように」

#shdaar「ように」★ (②76, ④15, ⑤84, ⑥1, MQM (amtu 15))

- (45) qidar pujig shdaar monggholqilewa. ⑤84

漢 字 の よう に 土族文字化した。

-shdaar「ように」(②75, ③2, MQM (nesdaar 374))

- (46) Te ghoor bulainu ghoirlaasansshdaar ugo taiji ②75

その 二人の 子供が 求めたように 指示し

4. 4. 動詞の陳述形式

動詞の文末形式には次のものがある。A, Bには主観範疇と客観範疇の区別があるが、Cにはその区別はない。()は用例が得られなかったものである。これらのうち下線を引いたものにはバリエーションが存在することが確認できた。用例が少ないためまたまバリエーションがないものがある。

A	主観範疇	gu+ii → gu+i	<u>gun+ii</u>	jin+ii	san+ii
	客観範疇	gu+a	gun+a	(jin+a)	san+a → sanna
B	主観範疇	<u>n+ii</u>		ji+ii → ji#ii	
	客観範疇	n+a		ji+a → ja	
C		<u>ni</u>		wa	
		m			

4. 4. 1. -GUN

-GUN-ii (-gun+主観範疇)

-gunii ★ (②67, ④13, ⑤5, ⑥14, ⑦46, MQM (gala- 120))

- (47) Bu qimu ideediigunii ⑥14

私は おまえを 食ってしまうぞ。

-gu#nii (⑤4, ⑥38) 疑問文

- (48) Bu aaja uligu nuu duu uligu nii? ⑤4

私は 兄に なろう か 弟に なろう か。

#gunii (④54) 疑問文

- (49) kijee hariji ire shda gunii? ④54

いつ 帰って 来ることが できるか。

-GUN-a (-gun+客観範疇)

-guna ★ (②20, ③4, ④11, ⑤6, ⑥21, ⑦6, MQM, 等)

- (50) alima ulonghaange dogla shdaguna? ②20

果物を たくさん 摘むことが できるか。

#guna (②56, ④11, ⑤2, MQM)

- (51) Bu qimu lii telgesa, nige ghoor durdu qi hoxinaa shdeji

私が おまえを 離さなければ 一 二 日でおまえは くちばしを 抜き

awu ada guna, ④11

取ることが できない。

4. 4. 2. -N

-N-ii (-n+主観範疇)

-nii ★ (②22, ③40, ④158, ⑤17, ⑥25)

- (52) Qi yaan dondogdu Cai Huangunla nigaama ugo da sii guleenu xoordo
おまえは どうして 蔡 框公 (人名) に 一 言 も 言わずに すぐ
yauwaadinii? ⑥25

帰らせてしまったのか。

#nii (⑤2, ⑥37)

- (53) Aance, qi yaandu ulaa nii? ⑤2
お婆さん、あなたは どうして 泣いているんですか。

疑問文でないのに次のような綴り字が出現する。

- (54) Bu kijeedu yau nii, qi tingere ghariba. ⑥37
私はいつでも 行きます。あなたは 車に 乗ってください。

4. 4. 3. -NI

-ni (②53, ④43)

- (55) tolghoinaange tailasa xoordo tingerenu sgeni. ②53
頭を 上げて すぐ 天を 見る。

#ni (④61, ⑤3)

- (56) munu keele losaanu qagla ada ni. ④61
私の 腹は 空いて 我慢 できない。

4. 4. 4. guna (客観範疇に後置する場合)

4. 4. 1. の場合とは違いこの表現ではほとんど分かち書きされている。

WAI GUNA

waiguna (④18)

- (57) sai tarijin qimsange waiguna. ④18
野菜を 植えている 家庭が あった。

wai#guna★ (②54, ④19, ⑤1)

- (58) torogu mengu seer haran taawun xjir wai guna. ④19
中に 千 錢 十 五 両 あった。

GUI GUNA

guiguna (④2)

- (59) tendu moghordaanu gulegu ugo guiguna. ④2
彼は 困惑し 言う 言葉が なかった。

gui#guna★ (②90, ④4, ⑤2, ⑥15)

- (60) anjii yersa da gui guna. ②90

どこを 搜しても ない。

-JII GUNA

-jiiguna (⑥17)

- (61) yauji dawaaji irejiiguna. ⑥17

歩いて 越えて 来た。

-jii#guna (②55, ④6, ⑤1)

- (62) huraa uroonu bau irejii guna. ②55

雨が 降って 落ちて きた。

4. 5. 判断語気助詞 (動詞以外の語に後置する場合)

4. 5. 1. 主観範疇

語末が n の場合様々な表記が見られる。

#ii (主観範疇) (④52, ⑦29, MQHU, MQM (hada- 159))

- (63) qi Baldag ii? ④52

おまえが バルダグ (人名) か。

- (64) Tijin nasila adasa taawun jirghoon ii. ⑦29 (n#ii)

40 歳に なれなくても 5、 6 人 いる。

-nii (主観範疇) (n-nii) (②68, ④32, ⑥12, MQM (jaliuxag 225), 等)

- (65) bu uqisan duraasi qi uqisan qaasa da ulonnii. ④53

私が 飲んだ 酒は おまえが 飲んだ お茶より も 多い。

#nii (主観範疇) (n#ii) (⑤8)

- (66) Budasge tingernu haannu xjun nii, ⑤7-8 (n-ii)

私たちは 天の 皇帝の 娘 です。

4. 5. 2. 客観範疇

母音語幹あるいは g 語幹の場合に wa、それ以外の場合に a となるのが普通であるが、語幹末が n の場合は -wa, -na, -a のバリエーションがある⁽¹⁰⁾。

-wa (客観範疇) ★ (②9, ③2, ④2, ⑤2, ⑥1, ⑦2, MQM (arang 20), 等)

- (67) Ken qighuunu hurghawa? ②9

誰が 啄んだ 虫か。

- (68) niur guijin jangjanu kunwa. ③20 (n-wa)

顔が ない 張家の 人だ。

-na (客観範疇) (n-na) (①39, ②92, ③59, ④44, ⑤55, ⑦42, MQM (arang 20), 等)

- (69) Budasgenu moor durijin kunna. ①39

我々の 道を 導く 人だ。

-a (客観範疇) (②120, ④44, ⑦17, MQM (dundee 97), 等)

- (70) fureenu kidi udur naradasa ixida saina. ⑦17

種を 数 日 干すと さらに よい。○

#wa (客観範疇) (②31, MQM (hujilaadal 215))

(71) ... gigeen ghulo qiidag wa. ②31

明るい。

4. 6. 終助詞

4. 6. 1. da (命令、意志等の表現に接続する)

-da (①47, ②102, ⑥22, ⑦43, 等)

(72) Ne qagdu haxangnaa naadida, hoino joblong ujem. ②102

このとき 怠惰であれ、 後に 苦勞 する。(このとき怠惰なら後に苦勞する)

#da (②42, ④5, ⑤7, ⑥7)

(73) Buidangula muxi surisan mongghol pujignu qighaan tolghoinu nige nige juuriya da.

我々は 前に 習った 土族語の 文字の アルファベットを 一つ 一つ 書こう。②42

4. 6. 2. baa

-baa (②68)

(74) ... do surisannu ulonniibaa? ②68

もう 習ったのは 多い。

#baa (②74)

(75) buda ghoornunge huraadii baa! ②74

我々 二人を 仲間に入れてください。

4. 6. 3. ya

-ya (④41, ⑥12)

(76) Bu sain ndang ugo sonosijin nohui nimbiiya! ⑥12

私は 良い 感情の 言葉を 聞く 犬 だ。

#ya (⑦49, MQM (nandaa 353))

(77) Qi ndaa ya. ⑦49

あなたは 私に。

4. 6. 4. joo

-joo (③13, ④132, ⑤16)

(78) Wusi tolghoire baujajoo; ⑤16

草の 頭に 降れた。

#joo (③73, ④54, ⑤36, ⑦49, MQM (nandaa 353))

(79) Qimlaa hamdu nguraam joo! ⑤36

あなたと いっしょに 転がる。

4. 6. 5. saa

-saa (④8, ⑥12)

(80) qimu bulaisge sainasaa? ④8

おまえの 子供たちは 元気か。

#saa (④53, MQM (moghurdalgha 327))

- (81) Xuuwaa xjilghawa saa? ④53

勝ったか。

4. 6. 6. sai

-sai (MQM (jangxii 223))

- (82) jangxi bu kilesan ugonu qi mashdaaji guisai MQM (jangxii 223)

さっき 私が 言った 言葉を あなたは 忘れ ないように。

#saa (MQM (sai 2 471))

- (83) irewa sai MQM (sai 2 471)

いらっしゃい。

4. 7. 接続助詞

-jida★ (③2, ⑥27, ⑦5, MQM (dali 65), 等)

- (84) njeenaanu mulaa jaljighaanaa amunge tarlaghaya giji sananajida ayisan

自分の 小さい 仔の 命を 救おう と 思ったけれども 恐れた

samaare te njeenaanu mulaa buye xirgudaaxja. ⑥27

様子で その 自分の 小さい 体が 身震いした。

#jida (⑥1)

- (85) Qidar ugonu anjii da jarina jida, qoon szarbaten loglog sausan

漢 語を どこで も 用いる けれども、少数 民族が 集中して 居住している

ghajardu njeen njeenaanu ugo da pujignaa jarina. ⑥1

土地では それぞれの 言語 と 文字を 用いる。

4. 8. その他

-xja (⑦6, MQM (adajinge 2), 等)

- (86) nensa huinoda argu shge Gunsandangdu durisan dooro nige qimsangnu agha diu

今 後 も 偉 大な 共産党の 指導の 下に 一つの 世界の 兄 弟の

madu amragdiji rjeeleji mpeelegu moordu yauguxja. ⑦6

ように ? 満開になり 発展する 道を 進む。

#xja (③6, MQM (tixindaa 578))

- (87) budanguladu hudu nokor gigu xja. ③6

我々に 大いに 援助 する。

5. 疑問助詞

疑問助詞の音節主音は uu であり、疑問文、命令文に現れる。疑問助詞は普通は Yes-No 疑問文に用いられるが、動詞が -gu で終わる場合、疑問詞を伴って uu という疑問助詞が修辭疑問文に限って出現する⁽¹⁾。Wh 疑問文に呼応する疑問助詞は存在しない。yuu は「または」を意味する接続詞的な用法もある。

疑問助詞の綴り字は次のように分類できる。

- A 本来型：前の語から離して書く。
- B 結合型：前の語に付けて書く。その際母音が3つ続くのを避けるために次のような縮約が起こる。(u+uu→uu, a+uu→uu, i+ii→ii, ji+uu→juu, ni+uu→niu)
- C 引き寄せ型（空白あり）：前の語の最後の子音を分離し、疑問助詞の語頭に付けて書く。その際母音が3つ続くのを避けるために次のような縮約が起こる。(u+uu→uu, a+uu→uu, i+ii→ii, ji+uu→juu, ni+uu→niu)
- D コピー結合型：前の語の最後の子音を繰り返し、疑問助詞を続けて書く。
- E コピー引き寄せ型（空白あり）：前の語の最後の子音を繰り返し、疑問助詞の前に付け、前の語から離して書く。
- F 消去分離型（空白あり）：前の語の最後の音節を脱落させ、疑問助詞は離して書く。

常にこれら6通りが出現するわけではなく、具体的には次の表のようになる。gu#nuuのように分かち書きの面で特殊な綴り字があるので、バリエーションがないものもすべて例を挙げる⁽¹²⁾。

疑問文の文末形式

	形式		A 本来型	B 結合型	C 引き寄せ型	D コピー結合型	E コピー引き寄せ型	F 消去分離型
疑問助詞	i	yu	#yu★	-yu	—	—	—	—
	a	nu	#nu★	-nu	—	—	—	—
	nii	uu	nii#uu	—	—	—	—	—
	gu	uu	—	-gu	#gu★	—	—	—
	m	uu	m#uu	-mu	#mu★	mmu	m#mu	—
	na	uu	—	-nu	#nu	—	—	—
	gun	uu	—	—	gu#nu	—	—	—
	wa	uu	—	-wu	#u	—	—	φ#u★
	ji	uu	—	-ju	—	—	—	—
	ni	uu	—	-niu★	#niu	—	—	—
主観範疇	n	ii	—	(-nii)	#nii	—	—	—
	gun	ii	—	-gunii	gu#nii	—	—	—
	ji	ii	—	(-ji#ii)	#jii	—	—	—

—：該当例なし -：空白なし #：空白あり _：コピー

()：陳述文なら可能

★：最も多い形式

5. 1. **yuu, nuu**

5. 1. 1. **yuu** (**wai, gui** に接続することが多い)

A #yuu★ (②82, ④30, ⑥9, ⑦44, MQM (nau-2 361), 等)

(88) Qimu tigii shge rdem wai yuu? ②114

あなたに そんな 大きな 知恵が ある か。

B -yu (①17, ②15) (「または」という意味の接続詞的な用法として用いられる)

(89) Ghoor amii ayang waiyu, ghuraan amii ayangu hamdulaadu daghaalghaanu

二つの 母 音 または 三つの 母 音を いっしょに 従えて

geejii waisa tenu neelengii amii ayang gina. ①17

おいた なら それを 重 母 音 という。

5. 1. 2. **nuu**

A #nuu★ (②122, ④15, ⑥21, MQM (aa 1), 等)

(90) Doorogu nige jur nige jur gulewur nigewa nuu? ②122

以下の 一 対 一 対の 文は 同じ か。

B -nuu (①14)

(91) Doorogu nige jur nige jur mongghol pujignu qighaan tolghoi sarlananu? ①14

以下の 一 対 一 対の 土族 文字の アルファベットを 試しなさい。

5. 2. **uu**

5. 2. 1. **nii uu**

A nii#uu (MQM (ai 4))

(92) qi bazar xjigunii uu? MQM (ai 4)

あなたは 町に 行きます か。

5. 2. 2. **gu uu** 疑問詞を伴っていることが多く、ほとんどが修辭疑問文である

B -guu (②45, ④3, ⑥14, MQM (jiisi 242), 等)

(93) qi shge imaadu ixi da **yaan** kileguu! ⑥14

おまえは 大きな 山羊に 何を 言うのか。

C #guu★ (④11, ⑤2, ⑥13, 等)

(94) qi lii fuguji **anjii** xji guu! ④11

おまえは 死なずに どこへ 行くのか。

5. 2. 3. **m uu**

A m#uu (②112)

(95) Nige pigiiji ughom uu ②112

一つ 許可して ください。

B muu (④133, MQM)

(96) Tesgenu saininunge uje shdamuu gisa, ④133

彼らの 良さを 見ることが できるか と言えば、

C #muu (MQM)

- (97) ire muu? MQM (muu 334)

来る か。

D muu (③6)

- (98) Ta hana ujesannu suuldu lamanqan sanalnaa kileji ugomuu! ③6

あなた方は皆 見て 最後に 良い 意見を 言って ください。

E m#muu★ (②57, ④5, ⑥37)

- (99) Shdamu uu? ②114

できる か。

5. 2. 4. na uu

B -nuu (③44)

- (100) Saighan wainuu, ③44

美しい か。

C #nuu★ (②36, ⑥12, 等)

- (101) Doorogu ugosgenu qi mude nuu? ②85

以下の 言葉を あなたは 知っています か。

5. 2. 5. guna uu

C gu#nuu (④64, ⑤4, ⑥23)

- (102) qi amunaa lii hgilegu nuu! ⑥23

おまえは 命を 求めないの か。

5. 2. 6. wa uu

B -wuu (③28)

- (103) Tena jilaange shdawuu gui? ③28

それを 思い出すことが できたか。

C #wuu (⑤11)

- (104) Tar shgaajadu mongghusinu sge wuu? giji szaghasa, ⑤11

石 兄に マンガスを 見た か と 尋ねると、

F φuu★ (②90, ⑥22, MQM, 等)

- (105) Qi kadamge sge uu? ⑥16

あなたは 狼を 見ました か。

5. 2. 7. ji uu

B -juu (②91)

- (106) Solghoi rogdu bal xjaawaanu, warang rogdu tudorgha xjaajuu? ②91

左 側に 蜜を 積み、 右 側に 米を 積んだか。

5. 2. 8. ni uu

B -niu ★ (②61, ③26)

- (107) Qi sainiu Leenin tundaa. ②61

こんにちは レーニン 同志。

C #niu (④8)

(108) Kiree aanee, qi sai niu? ④8

鳥 お婆さん、こんにちは。

疑問助詞ではないにもかかわらず、次のように類推によってCの引き寄せ型が出現することがある。疑問文であることを視覚的に表示する効果はあるが、形態論的には不自然な表記である。

(109) Aanee, qi yaandu ulaa nii? ⑤2 (ulaa+n+ii)

お婆さん、 どうして 泣いているんですか。

(110) Buda ghoilo anjii xjigu nii? ⑤4 (xji+gun+ii)

我々 二人は どこへ 行くのか。

(111) yaan njilaya giji sanaa jii! ⑤4 (sanaa+ji+ii)

何を しよう と 思ったのか。

6. 異形態の選択の違いによるバリエーション

「単数」を表す形態は通常、子音語幹には-ge が付き、母音語幹には-nge が付くが、稀にそうになっていない場合がある⁽¹³⁾。

子音語幹-ge (②83, ③2, ④7, ⑤1, ⑥1, ⑦1, MQM, 等)

sgil-ge 「心」 ③2

子音語幹-nge (③2, ④141, ⑥52)

pujig-nge 「文字」 ③2, sgil-nge 「心」 ④141, bas-nge 「虎」 ⑥52, kudal-nge-du 「谷間」 ④142

母音語幹-ge (⑥16)

huxinaa-ge 「口を」 ⑥16

母音語幹-nge (②11, ③2, ④3, ⑤1, ⑥2, ⑦4, MQM, 等)

mori-nge 「馬」 ⑦4

7. iの有無

②, ③, ④, ⑤, ⑥, MQM には動詞語幹末の ri, li の i が d, j, s, g, l 等で始まる接辞の前で脱落するかもしれないかによるバリエーションがある。g 以外は舌先で始まるという共通の特徴を持っている。しかし例は少ないが、同じ舌先の子音で始まる-ya (意志) の前では i は保存されるようである、どの語が i を失うかは規定できない。また同一の書物内で同じ i を持っていたりいなかったりする。①, ⑦ではこういった環境では常に i が書かれていて i を脱落させている例は見当たらない。i が脱落することが観察された語は次のような語である⁽¹⁴⁾。

語幹	-ji	-jin	-jii	-ja	-sa	-sada	-san	-gu	-la
wari-		warjin		warja	warsa		warsan		
ghari-	gharji		gharjii	gharja			gharsan	ghargu	
kuri-	kurji			kurja	kursa			kurgu	
suri-	surji	surjin		surja					

yari-	yarji		yersada	yerla
juuri-		juurja	juursa	
jari-	jarji			jargu
hari-	harji			
seri-	serji			
arili-		arilja		
uli-	ulji			
posi-		posja		

8. 土族語正書法でバリエーションがないもの

終助詞及び動詞終止形の中には使用頻度が少ないものがあるので、確定的なことは言えないが、以下のものにはバリエーションが存在しない。

接続詞	#da 「と」
否定	-n#gui (現在＋主観範疇), -n#gua (現在＋客観範疇), -ji#gui (過去＋主観範疇), -ji#gua (過去＋客観範疇)
「そうだ」	#gina
終助詞	分かち書きしないもの -ba, -bii, -jee, -ma 分かち書きするもの #bai, #daa, #dai, #lai, #nec, #tang, #yaa
接続助詞	-ha
名詞に付くもの	-sge (複数), -ngula (複数) -naa (再帰格), -du (与位格), -re (位格), -ji (方向格), -dii (共同格), -la (造格), -duji (与位格＋方向), -reji (位格＋方向格), -resa (位格＋尊格), -gu 「～の」, -dugu (与位格＋「の」), -regu (位格＋「の」), -du 「～のある」, 格＋nge
動詞に付くもの	-ldu (相互), -lgha (使役), -dii 「～てしまう」, -laa, -la#gi 「させておけ」 ⁽¹⁵⁾ , -ya 「意志」
形動詞	-gu (未来), -san (過去), -jin (現在)
副動詞	-n (非分離), -ji (結合), -aanu (分離), -sa (仮定), -la (目的), -saar (継続), -dulaa (限界)
終止形	-gui (現在＋主観範疇), -gua (現在＋客観範疇), -jin#nii (現在＋主観範疇), -sanii (過去＋主観範疇), -sanna (過去＋客観範疇), -na (現在), -m (現在), -ji#ii ⁽¹⁶⁾ (過去＋主観範疇), -ja (過去＋客観範疇), -wa (過去), -aaxja 「～てしまった」

9. 「,」の用法

表記のバリエーションではないが、土族語の正書法の特徴として、次のような興味深いものがある。「,」とは別に「,」が列挙するときのみ用いられている。この表記は②, ④, ⑥, ⑦に現れるので、土族語の正書法として確立したものと考えることができる。①, ③, ⑤にはたまたま該当する表現が現れない。ただし列挙する場合に常に「,」が用いられるわけではない。

名詞

- (112) ngoyi darang qidar, tewer, uighur, mongol, yii szarbatensgenu

これ以外に 漢族、チベット族、ウイグル族、モンゴル族、イ族 諸民族の
hughoinii ni monggholqileji pagdalghawa. ④185

故事を 土族語に翻訳し 含めた。

動詞句 (-gu, -ji, -san が並列されている例がある)

- (113) guji shdaagu, szzang gharghagu, tolghui murgugu, tigii ④31-32

香を 焚く、 煙を 上げる、 頭を 下げる 等

10. 「,」と「,」の使い分け

土族語の正書法で記されたテキストには、いわゆる文末（陳述）で、「,」の代わりに「,」が用いられることがある。この用法を明確に規定するには土族語の文を定義しなければならないが、ごく大まかに言うと、並列の場合に「,」が用いられるようである。清格爾泰 (1986) の句読点の使い方にも共通した特徴がある⁷⁷⁾。なお「,」がこの文脈で使われることはない。韻文の改行にも行末で「,」が用いられることがある。

11. 「!」「?!」の使用

④にだけ次のような表記が用いられている。④の執筆者の個人的な好みであろう。

- (114) gidergu toilghoindu shdormaa irelghagunu ken mude guu!? ④22

後 頭に 間違いを 来させるのを 誰が 知っていよう か。

- (115) niudur anjiisa ghudal kilegu saguunu wai nuu?! ④46

今日 どこに 嘘を つく 度量が ある か。

12. 人名の表記

「毛沢東」「李克郁」「席元麟」の表記に次のように母音の音価とともに、大文字、空白、「-」使用方上の微妙なゆれがある。

「毛沢東」 Mau ze-dun ①39, Mau zaidun ②128, MauZaidun ⑦3

「李克郁」 Li-kiiyuu ③5, Likeyu MQM2

「席元麟」 Xi-yuanlin ③6, Xiiyuanlin ⑥60

1 3. 書名の表記

引用符、大文字、小文字の使用法にいくつかのパターンがある。

《mongghol pujig surigu debtir》②133 『土族讀本』

“Monggholnu kudugu dau” ③5 『土族民謡』

《Qidar kile pujig》⑥85 『中国語文』

1. 日付の表記

空白の有無、nu「の」の有無、du「に」の有無、「.」の用法にいくつかのパターンがある。

1982・6 ⑥表紙	「1982年6月」
1990.6 ⑦表紙	「1990年6月」
1981.4. ④188	「1981年4月」
1981.11. ⑤85	「1981年11月」
1981.4.23du ②112	「1981年4月23日に」
1982fon 6saradu ⑥60	「1982年6月に」
1980fonnu 8saranu 30du ③6	「1980年の8月の30日に」
1981 fonnu 4 sara ④表紙	「1981年の4月」
1981 fonnu 11 saradu ⑤表紙	「1981年の11月に」
1921 fonnu 7 Saranu xini 1 du 1⑦1	「1921年の7月の1日に」
2 srnu 26 du ②15	「2月26日に」

1 5. 分節法

①, ④, ⑤, ⑥, ⑦, MQM には分節法上の不備が見られる。不備が生じるのは行の終わりで音節の切れ目とは無関係に機械的に切るからである。

1 6. 土族語正書法のバリエーション (まとめ)

バリエーションがあるものについて各資料別にその有無を記すと以下のようになる。○はその形式が存在すること、－は存在しないこと、数字はページ（できるだけ初出）を表す。その他の記号は本文と同様、#：空白あり、-：空白なし、★：最も普通の形式を表す。

i/u

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	MQHU	MQM
主題 名詞に付くもの									
#ni (主題) ★	○26	○ 6	○72	○ 45	○ 1	○58	○ 3	—	○
-ni (主題)		○ 57		○151				—	
-nu (主題)		○ 9	○72	○ 41		○26		—	○
-nii#ni「を」		○ 23		○185		○ 5		—	
-niinu「を」 ★		○ 7	○ 4	○ 14		○ 8	○37		
副動詞に付くもの									
-dulaanu				○ 31			○43	—	
主語									
#ni (主語) ★	○22	○ 26	○ 7	○ 9	○ 3	○ 2	○ 3	—	○
-ni (主語)		○ 74		○ 20	○75			—	
-nu (主語)			○ 5	○ 46		○28		—	
-gu#ni (主語)				○ 5				—	
-guni (主語)				○ 22				—	
-gunu (主語) ★	○34	○ 13	○ 4	○ 3	○ 3	○ 5	○ 2	—	○
-sanni (主語)				○ 27				—	○
-sannu (主語)		○ 14		○ 46		○48		—	
属対格									
-nu (属対格) ★	○15	○ 1	○ 1	○ 1	○ 1	○ 1	○ 1	—	○
#ni (属格)				○159				—	○
#ni (対格)				○ 7				—	
-nii (属格)						○15			
-nii (対格)				○ 56		○29			

gh/g

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	MQHU	MQM
接続体副動詞									
-san#gulo ★		○ 4		○ 1	○ 5	○ 2		—	○
-san#ghulo					○ 9	○27		—	
-san#gula						○17		—	
-san#ghula						○34		—	
-sangula			○ 2					—	
形容詞#guko ★		○ 31		○ 48	○44		○21	—	○
形容詞#gulo		○118		○ 8				—	○
形容詞#ghula				○ 10				—	

a/aa

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	MQHU	MQM
-sa (奪格) ★	○ 37	○ 6	○ 1	○ 13	○ 1	○ 1	○ 6	—	○
-saa (奪格)			○ 3	○ 73		○ 3		—	

土族語の正書法のバリエーション

-/#

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	MQHU	MQM
#da「も」 ★		○ 3		○ 4	○ 1	○ 1		—	
-da「も」			○ 4				○ 6	—	○
-nu#da「も」					○ 2			—	
ixi#da「非常に」		○ 52		○ 90	○ 1	○ 2		—	
ixida「非常に」						○ 18	○ 17	○	○
ixiida「非常に」	○ 47							—	
譲歩副動詞									
-sada（譲歩） ★	○ 29	○ 23	○ 2			○ 39	○ 8	—	○
-sa#da（譲歩）		○ 27		○ 1	○ 1	○ 4		—	
#mange「など」 ★		○ 25		○ 7	○ 3	○ 2		—	
-mange「など」			○ 4				○ 40	—	
-nu-mange「など」						○ 16		—	
-ni#mange「など」				○ 7				—	
#shdaar「ように」		○ 76		○ 15	○ 84	○ 1		—	○
-shdaar「ように」		○ 75	○ 2					—	○

-/#（動詞）

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	MQHU	MQM
-GUN									
Vst-gunii（主） ★		○ 67		○ 13	○ 5	○ 14	○ 46	—	○
Vst-gu#nii					○ 4	○ 38		—	
Vst#gunii				○ 54				—	
Vst-guna（客） ★		○ 20	○ 4	○ 11	○ 6	○ 21	○ 6	—	○
Vst#guna（客）		○ 56		○ 11	○ 2			—	○
-N									
Vst-nii（主） ★		○ 22	○ 40	○ 158	○ 17	○ 25		—	
Vst#nii（主）					○ 2	○ 37		—	
-NI									
Vst-ni		○ 53		○ 43				—	
Vst#ni				○ 61	○ 3			—	
ii GUNA									
waiguna（客）				○ 18				—	
wai#guna（客）		○ 54		○ 19	○ 1			—	
guiguna（客）				○ 2				—	
gui#guna（客） ★		○ 90		○ 4	○ 2	○ 15		—	
-jii									
Vst-jiiiguna						○ 17		—	
Vst-jii#guna ★		○ 55		○ 6	○ 1			—	

-/# (主観範疇/客観範疇)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	MQHU	MQM
#ii (主)				○ 52				○	○
n#ii (主)				○ 32			○29	—	○
n-nii (主)		○ 68		○ 32		○12		—	
n#nii (主)					○ 8			—	
-wa (客) ★		○ 9	○ 2	○ 2	○ 2	○ 1	○ 2	—	○
n-wa (客)			○20		○74		○ 5	—	○
#wa (客)		○ 31						—	
ng-wa (客)								—	○
ng-na (客)						○ 4		—	
n-na (客) ★	○39	○ 92	○59	○ 44		○55	○42	—	○
-san-na (客)		○ 83	○ 2	○185			○44	—	○
sain-a (客)		○120		○ 44			○17	—	○

-/# (助詞)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	MQHU	MQM
終助詞									
-da	○47	○102				○22	○43	—	
#da		○ 42		○ 5	○ 7	○ 7		—	
-baa		○ 68						—	
#baa		○ 74						—	
-ya				○ 41		○12		—	
#ya							○49		
-joo			○13	○132	○16			—	
#joo			○73	○ 54	○36		○49	—	
-saa				○ 8		○12		—	
#saa				○ 53				—	○
-sai								—	○
#sai								—	○
接続助詞									
-jida			○ 2			○27	○ 5	—	○
#jida						○ 1		—	
-xja							○ 6	—	○
#xja			○ 6					—	○

-#/コピー（疑問助詞）

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	MQHU	MQM
A #yuu ★		○82		○30		○9	○44	—	○
B -yuu	○17	○15						—	
A #nuu ★		○122		○15		○21		—	○
B -nuu	○14							—	
A nii#uu								—	○
B #guu		○45		○3		○14		—	○
C -guu ★				○11	○2	○13		—	
A m#uu		○112						—	
B -muu				○133				—	○
C #muu								—	○
D m-muu			○6					—	
E m#muu ★		○57		○5		○37		—	
B -nuu			○44					—	
C #nuu ★		○36				○12		—	
C #nuu (gu#nuu)				○64	○4	○23		—	
B -wu			○28					—	
C #wu					○11			—	
F #uu ★		○90				○22		—	○
B -juu		○91						—	
B -niu		○61	○26					—	
C #niu				○8				—	
疑問助詞φ									
n#ii					○2	○25		—	
gu#nii					○4	○38		—	
jii#nii						○38		—	
#jii					○4			—	

A：本来型 B：結合型 C：引き寄せ型（空白あり） D：コピー結合型

E：コピー引き寄せ型（空白あり） F：消去分離型（空白あり） ★：最も多い形式

異形態の選択

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	MQHU	MQM
C-ge（単数） ★		○83	○2	○7	○1	○1	○1	—	○
C-nge（単数）			○2	○141		○52		—	
V-ge（単数）						○16		—	
V-nge（単数） ★		○11	○2	○3	○1	○1	○4	—	○

発音、表記

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	MQHU	MQM
gho	○	○	○	○	○			○	
ghu						○	○		○
o - o	○	○	○	○	○	○		○	
u - o	○					○	○		○
i → φ / __ C V	—	○	○	○	○	○	—	—	○
分節法不可		*		*	*			—	*
- (分節以外)							○	—	
人名分節 (-)			○ 5					—	
! ?				○ 22				—	
? !				○ 46				—	
!		○ 11		○ 11	○ 2	○ 43		—	
?	○ 25	○ 9		○ 2	○ 2	○ 10		—	
,	—	—	—	—	—	—	—	—	○
,		○ 4		○ 185		○ 5	○ 5	—	

註

- (1) さらに詳しくは孫竹、吳安其 (1990) を参照のこと。同論文の p. 18に、「zh, ch, sh は漢語、チベット語からの借用語にのみ用いられる」という記述が見られるが、sh に関しては shge 「大きい」のような土族語の固有語にも用いられるので、事実と異なる。またこの論文の出版の日付はテキスト⑦より約2ヶ月早い1990年4月5日であるが、holo 「遠い」は1988年出版のMQMですでに hulo の綴り字が採用されている。
- (2) 角道 (1990: 61-64) で述べていない語幹内部のバリエーションには次のようなものがある。

	MQHU	MQM
母音の音価		
o	a	a
pogdag <u>u</u> ④105	pagda-	pagdag <u>u</u> (日が) 沈む
arog ⑦14	arag	arag 籠
norlo ②88	norla-	norla- 傷つく
polona ⑦8	—	pol <u>ana</u> 播く
a	a	o
tangghur <u>laa</u> ②83	—	tongghur <u>laa</u> (涙を) 浮かべて
darang ②106, ⑥8	darang	darong まだ
boodandu ②55, ④3	—	boodongdu 息をはずませて
booja ⑦15	—	boojo フォーク (農機具)
a	—	i
amdag <u>ha</u> ⑥13	—	amdigha 誓う
u	—	o
tudurgha ⑦14	—	tudor <u>gha</u> 米
o	a	u
zooho ④63	zooha ~ zauha	zoohu 籠
i	—	e
guirixja ④30, 50	—	guirexja
e	i, e	i
nengen ④40	ningem ~ nemgen	nimgen 薄い

nem <u>beenu</u> ⑥2	—	nim <u>beenu</u>	まとめて
e	a	a	
sgc <u>elaawaanu</u> ④101	sg <u>alaa-</u>	sg <u>alaawaanu</u>	瘦せて
sg <u>ernii</u> ④106	sg <u>ar</u>	sg <u>arnii</u>	声を
tir <u>me</u> ⑦10	tir <u>ma</u>	tir <u>ma</u>	臼
a		e	
x <u>ale</u> go <u>le</u> ④44	—	x <u>ele</u> go <u>le</u>	
a		i	
debt <u>ar</u> ④185	—	debt <u>ir</u>	冊子
ua	o	u	
gh <u>uar</u> ⑥3	gh <u>or</u>	gh <u>ur</u>	光
ua		aa	
ju <u>juan</u> ⑦12	—	ju <u>jaan</u>	密な
aa		ua	
jima <u>axja</u> ④10	—	ji <u>muaxja</u>	閉めて
母音配列			
o-o	o-o	u-a	
lorjog <u>du</u> ④43, ⑥8	lorjog	lurjog	突然
a-a	o-o	u-o	
soobal <u>anii</u> ④96	soobol <u>o-</u>	soobul <u>onii</u>	治療する
qalag④128	—	qulog	
母音の有無			
h <u>φ</u>	hu	hu	
h <u>gho</u> ④92	h <u>ugho</u>	h <u>ughu</u>	腹
わたり音の有無			
y	φ	φ	
yim <u>elsa</u> ③18	imel	imel	鞍
yima <u>ala</u> ③63	imaa	imaa	山羊
yiida <u>awa</u> ③75	idi-- <u>udi-</u>	ida <u>awa</u>	痛んだ
w	φ	φ	
woos <u>ija</u> ③73	oosi-	oosija	育った
子音の音価			
gh	h	h	
saigh <u>an</u> ③44	sai <u>han</u>	sai <u>han</u>	美しい
zh	zh	j	
panzhong <u>e</u> ④40	panzhoo	panjoo	あぐら

- (3) Тодаева (1973) では主題は-ni、属対格は-neという明確な区別がある。
- (4) 照那斯圖 (1981:22) は属対格の-nəのəは三人称所有接辞-neの前で ii になると記述しているが、清格爾泰等編 (1988) の資料を検討すると必ずしもそうっていない。例えば「黒馬」(pp. 172-204) には、-ni: nəは2例しかないのに対して-ni: は10例ある。モンゴル文字による逐語訳ではどちらの場合も三人称所有接辞が付されている。この解釈が正しいとすれば、「三人称人称接辞の前で属対格の母音は長母音化するが、その際三人称所有接辞は省略可能である」と記述しなければならない。もっともこの長母音化の現象は、東溝方言に限られるようであり、Тодаева (1973) では-нени、天祝方言では-nə nə (対格+三人称所有接辞) 4137のように長母音化していない形式で現れる。Schröder (1959) の表記は長母音の長さがいまいであるが、-nini の形式で現れる。
- (5) この形態素を分かち書きする理由は分からない。ただ席元麟が読んだテープでは-san と gulo の間に

- 常にピッチの下降が観察される。Heissig (1980) には-dzanguluo の形式で現れる。
- (6) 形容詞を修飾して程度が大きいことを表す語には前置型の *ixi*、後置型の *naama*, *hughui* がある。
- (7) -saa が現れるのが語彙的に限定されているわけではないが、実際に現れたのは *fonsaa*③3「年から」, *muxisaa*④73, 169「前から」, *sghausaa*④78, ④99 (2回)「時から」, *shdesaa*⑥3「早くから」のように時に関係する語ばかりである。
- (8) 清格爾泰 (1988) のモンゴル文字逐語訳では-ju bayiqun ayu となっておりТодева (1973) では-джігүна, Schröder (1959) では-dziguna となっていて、こちらの分析のようが直観にあう。したがって正書法の-jii#guna という綴り字は不自然であり、-ji#iiguna あるいは-jiiiguna とすべきである。疑問助詞の綴り方にも同じような問題がある。
- (9) 東溝方言、ハルチゴル方言、ナリンゴル方言では助詞「も」と接続助詞「と」とが音声的に区別されないが、天祝方言では助詞「も」は-ta、接続助詞「と」は-te というように母音の違いがある。
- (10) 孫竹、吳安其 (1990: 18) には、r, l, n, m で終わった名詞語幹に wa が付くとき、w が語幹末子音に同化するけれども、正書法では wa と書くという記述があり、tarwa「石だ」、balwa「蜂蜜だ」、kunwa「人だ」、samwa「櫛だ」の例が挙げられている。テキスト⑦の綴り字はこの主張に近いが、sainna⑦44「良い」、ghurdinna⑦42「速い」のような表記が出現する。もっともこれらの語は形容詞なので、孫竹、吳安其 (1990: 18) の記述とは違うのかもしれない。
- (11) 角道 (1998: 48) を参照のこと。
- (12) 疑問助詞の綴り字に関しては次のような問題もある。以下の組み合わせのうちで*が付いているものは存在しないようである。

	肯定	否定
主観範疇	wai yuu	gui yuu
	wai nuu	*gui nuu
客観範疇	waina nuu	*guina nuu
	*wa yuu	*gua yuu
	wa nuu	gua nuu

- (13) Heissig (1980) では本来子音幹の語「服」が diel-ge GR 518, diele-nge GR 1716, diela-nge GR 1777 のようなバリエーションを持って現れる。つまり、子音語幹に母音が添加されて母音語幹のように振る舞っているわけである。本来子音語幹の「石」は taš-ge GR 1803 のように規則的であるが、taše-ne GR 71, taše GR 77 のように単独では母音語幹のように見える場合もある。なおナリンゴル方言では子音語幹にも母音語幹にも-ge が付き、天祝方言では子音語にも母音語幹に nkə が付く。
- (14) 孫竹、吳安其 (1990: 19) は tarisan「植えた」の例を挙げ、i は正書法で脱落させないと記述している。
- (15) Тодева (1973) では-laxge, Schröder (1959) では-lage であり、分かち書きする理由は見当たらない。
- (16) 修辭疑問文の文末に#jii の形式が現れる。(111) の用例を参照のこと。
- (17) Тодева (1973) では文末には必ず「。」が用いられている。Schröder (1959) では文ごとに通し番号がふられており文末は「。」で終わる。甘肅省《格薩爾》工作領導小組?公室、西北民族学院《格薩爾》研究所編 (1996) では、音節ごとに区切られて書かれているが、「。」や「。」はいっさい用いられていない。

参考文献

- 角道正佳 (1990) 「土族語の正書法」『大阪外国語大学論集』第4号 49-76
- 角道正佳 (1998) 「蒙古語諸語の疑問助詞」『大阪外国語大学論集』第20号 35-56
- 斯巴特爾 (1985) 『土族語詞彙』蒙古語族語言方言研究叢書014 内蒙古人民出版社
- 甘肅省《格薩爾》工作領導小辦公室、西北民族学院《格薩爾》研究所編 (1996) 『格薩爾文庫』第三卷

甘肅民族出版社

魯長寿 (1986) 「大力試行土族文字提案高文化水準」中国語言民族学会編『中国民族語言論文集』四川民族出版社 58-66

清格爾泰等編 (1986) 『土族語話語材料』蒙古語族語言方言研究叢書015 内蒙古人民出版社

清格爾泰編著、李克郁校閱 (1988) 『土族語和蒙古語』蒙古語族語言方言研究叢書013 内蒙古人民出版社

孫竹、吳安其 (1990) 「從試行到推行的土族文字」『民族語文』一九九〇年第二期 18-22

照那斯圖 (1981) 『土族語簡誌』中国少数民族語言簡誌叢書 民族出版社

Heissig, Walther (1980) *Gäser rēdzia-wu, Dominik Schröders nachgelassene Monguor (Tujen) -Version des Geser Epos aus Amdo*, Otto Harrassowitz, Wiesbaden

de Smedt, A. et A. Mostaert (1933) Le dialect monguor parlé par les mongoles du Kansou occidental III^e partie *Dictionnaire Mongole-Français*, Imprimerie de l'université Catholique, Pei-p'ing

Schröder, Dominik (1959) *Aus der Volkdichtung der Monguor*, 1 Teil, Otto Harrassowitz, Wiesbaden

Тодаева (1973) Монгорский язык, Издательство “Наука” Главная редакция восточной литературы, Москва

(2002.1.30 受理)